

第3回「長野県公共交通活性化協議会佐久地域別部会」議事概要

日時 令和4年9月9日(金) 13:30~15:30

場所 佐久合同庁舎 404号会議室

1 会長あいさつ

○佐久地域振興局

- ・本部会で協議、検討した事項については、来年策定予定の長野県地域公共交通計画に反映していく。
- ・佐久地域がより暮らしやすい地域となるよう、委員各位からご意見いただきたい。
- ・県の総合5か年計画も策定中。公共交通は、脱炭素社会の実現、魅力ある地域づくりに不可欠なもの。そういった観点も踏まえ、佐久地域の公共交通の維持発展に向けた取組に向けご意見をいただきたい。

2 会議事項

(1) 幹線公共交通ネットワークの構築について

ア 地域公共交通計画について

○交通政策課

- ・資料1 P1.~P5.に基づき説明

●意見交換

○小諸市

- ・市地域公共交通計画は策定していない。(R2までの地域公共交通網形成計画の更新をしていない。)
- ・H27からデマンドバスを運行。朝夕は定時定路線、日中はデマンドで運行していたが、定時定路線の利用者が少なく、昨年度から定時運行を廃止し、全てデマンド化したところ。現時点ではこれが最善の形と認識。今後新たな政策を進めることになれば、公共交通計画を策定する予定。
- ・課題は収益性が上がらないこと。現在2割くらい。高齢者の外出機会を創出することが必要。現在 MaaS 事業の社会実験中。
- ・デマンドについては、一度、市中心部に移動して、そこから乗り換えるという方式。

○佐久地域振興局

- ・小諸市東側の地域の移動方針について。佐久市への移動方法はどのように考えているか。

○小諸市

- ・他市町村にデマンドを乗り入れる場合、協議など必要で、すぐにはできない。佐久市にも簡単に乗り入れできないが、買い物バスや文化施設を巡れるようになればいいと思う。そのような調整を県がやってもらえるとありがたい。

○北相木村

- ・自家用有償旅客運送で昭和 58 年から村営バスを運行。平成 17 年、病院移転に伴い、佐久総合病院小海分院まで延長。
- ・利用者の用途は、朝夕は保育園児、小、中、高校生の通学。昼間は高齢者の移動。
- ・小海駅において鉄路への連絡が悪い状況。
- ・土日は便数減。村外からの利用者は移動しにくい状況。
- ・高齢者は、通院がメイン。村診療所までの通院もあれば、小海町への通院もある。
- ・南相木村の村営バスとは、小海町の区間だけ重複。

○軽井沢町

- ・過去に、高齢者の足の確保と安否確認を兼ねて福祉分野において政策を行ったが、複数の住民が 1 台に乗り合わせることに對して弊害があり、うまくいかなかった。
- ・現在、交通計画は策定していない。令和 6 年度中に開始できるよう、策定作業中。
- ・利用目的は、福祉分野、教育分野、観光分野、一般住民の生活分野。以前は民間路線バスがあったが、廃止された中でせめて町内だけは面的にカバーできるよう、町で 3 路線のバスを運行。
- ・しなの鉄道は町内に 3 駅あり、欠かせない存在。地元で守っていききたい。利用促進に取り組む。また、既存事業についても改めて庁内で検討中。計画に繋げていく。
- ・高校生、高齢者、観光客の利用について。空白地帯を埋めるため、デマンド交通を取り入れることができないか検討中。民間事業者による MaaS の実証実験が、9 月末から 3 月まで第 2 回目が実施される予定。民間主体で今後取り組んでいければよい。
- ・地域間を結ぶ幹線には期待。佐久方面に向かう高校生は時間短縮のため、鉄道とは別の方法が取ればよい。
- ・広域的に観光へ取り組むためには、地域間を結ぶ交通機関は、1 つの自治体のみで考えるのではなく、県が主導的に考えてくれるとありがたい。

○立科町

- ・平成 30 年に網形成計画策定。期間は令和 5 年度までで、来年度更新予定。町内循環バスは 4 路線。循環バスのうちシラカバ線は、女神湖・白樺湖に住む小学生の通学も兼ねている。ほかに活性化協議会が福祉デマンドタクシー（対象者限定の登録制）を運行。
- ・鉄路がなく、バス路線が頼み。中仙道線について、令和 3 年秋に民間事業者による自主運行が廃止。利用者が少ないため平日日中、土日祝日の運行を廃止。平日の場合、朝移動しても日中に帰ってくる便がない。
- ・2 月から国の一括定額運賃制度を活用し、タクシーによる輸送サービス（定額チケット）を開始。運賃との差額は町が負担。4 月から 8 月まで月平均 48 回の利用。1 日平均とすると 2 回に届かず。バスの運行では効率が悪いが、バスを必要とする人のために実施している状況。
- ・中仙道線（佐久方面、上田方面）、丸子線は、収支の赤字分を市町が負担している。負担

金の按分方法は、佐久市とは利用者数、距離で按分しているが、上田市とは距離で按分。同じ方法であればよいのだが。

- ・高齢者は日常生活に支障のないよう運行している。
- ・中学生が高校を選択する際に、進学先の選択肢が狭くなっているかもしれない。両親による送迎も行われている。
- ・土日でも観光客利用はあるため、地域間を結ぶ公共交通を考えていただけるとありがたい。

○国土交通省北陸信越運輸局長野運輸支局

- ・デマンドを運行する市町村は増えている。他地域ではタクシー事業者とうまく調整できないなどの声も聞こえてくるが、軽井沢町の場合、事業者ともお互いに調整して進めている。
- ・デマンド化して利用者が増えるかという点、そうはいかないケースもある。事務負担は大きい住民にアンケートを実施するなど、実際に乗るかどうかが検証なども必要。
- ・辰野町は、タクシー1月乗り放題3,000円（1回1,000円）を実施。県内初だと思う。こうした情報もご紹介していきたい。
- ・軽井沢町の計画策定について、補助制度について今後やり取りしたい。

○東日本旅客鉄道株式会社長野支社

- ・路線公表について。すぐ廃止するという点ではない。課題の整理という意味で一定の条件で情報を開示させていただいたもの。
- ・少子高齢化の中、利用者のみならず社員も人員不足。
- ・JRは空気みたいなものと言われ、なくなると困るもの。サービス内容の変更については、今後も丁寧にご説明していく。

○しなの鉄道株式会社

- ・コロナで定期外利用者が激減。経営は極めて厳しい状況が数年続いている。
- ・コロナ禍における経営改善策を策定。サービスダウンに関わる点ばかりであったが、経営改善に着手。災害等がなければ向こう10年は大丈夫という計画を出すことができたが、このところ燃料費が上昇しており、行政から支援はいただいているものの苦しい状況。
- ・6月までは比較的収益がよかったが、7、8月で落ち込み、9月に入っても思ったほど回復していない。
- ・通勤定期、通学定期はコロナ前の90%程度の頭打ちであり、もとの戻ることではないと考えている。
- ・路線ごとの収支は公表することは考えていない。

○県私鉄労働組合連合会

- ・仕事はあっても、運転手がいなくてバスが動かない状況。
- ・貸切バスはピーク時の3割程度の状況。
- ・佐久市循環バスについては1日平均4～5名の利用が続き廃止、デマンド化された。

- ・中仙道線（佐久方面）は、昼間の便がほしいとの声がある。行く便はあっても帰る便がなく、1本でもいいので走らせてほしいという要望あり。
- ・中仙道線（佐久方面）の運賃が定額化されたことはメリット。
- ・地元議員や自治体との情報交換を実施中。

イ 幹線公共交通ネットワークの構築について

○交通政策課、特定非営利活動法人 SCOP

- ・資料1 P7.~P11.に基づき説明

●意見交換

○軽井沢町

- ・市町村において地域公共交通計画の有無にバラつきがある中、同じ議論ができるのか。市町村間で温度差がないよう、県において全体の底上げを図られたい。

○交通政策課

- ・県計画について、市町村計画と整合は取る必要がある。スタートからすべて揃えることは難しいと思うが、毎年見直しをしていく。
- ・市町村域を越えたコミュニティバスを運行しているケースもある。協議の仕方は、新たな協議会を立ち上げる場合や既存の協議会を活用する場合など様々ある。

○軽井沢町

- ・県計画を作成するのであれば、広域的に運行する路線については、県計画で扱っていただけるとありがたい。

(2) MaaS の基盤づくりに向けた取組

○交通政策課

【キャッシュレス化の推進】

- ・導入を進める決済手段については、JR 東日本が提供する地域連携 IC カードを軸に検討することを過去、県が設置する検討会で決定。
- ・本協議会でも改めて方向付けしたいと考えており、できれば10月の全体会議で方向性についてお諮りしたい。

【公共交通情報オープンデータ化推進】

- ・インターネットの経路検索サービスで県内路線バスの経路が検索できるよう、国が定めるデータ形式で情報を整備する事業を実施中。データ利活用に係るセミナーを近日開催予定。

第3回「長野県公共交通活性化協議会佐久地域別部会」議事概要

日時 令和4年9月13日（火）13：00～15：00

開催方法 WEB 会議

1 会長あいさつ

○佐久地域振興局

・本部会の目的は、佐久地域における生活交通のあり方、持続可能で最適な公共交通システムの構築について意見交換を行うこと及び今後策定される長野県地域公共交通計画に対する意見をいただくこと。活発な意見交換をお願いしたい。

2 会議事項

（1）幹線公共交通ネットワークの構築について

ア 地域公共交通計画について

○交通政策課

・資料1 P1.～P5.に基づき説明

●意見交換

○佐久市

・昨年度からデマンド交通の実証運行を AI システム、ワゴン車 14 台を使って実施中。
・デマンド利用者は佐久市民のみ。しかし、隣接市町村へ行きたいという意見がある。次の課題と認識。県の力を借りないといけない。

○佐久地域振興局

・佐久市民以外の佐久市内における移動については、JR 小海線とタクシーを利用するという考え方でよいか。

○佐久市

・その認識でよい。立科町方面であれば、朝夕は中山道線を利用することも可能。
・デマンドバスについて、市民・市民以外で料金体系を区別することは考えていない。

○佐久穂町

・合併後から、町内でデマンドを運行。17 年ほど経過した。
・高齢化、人口減少により利用者は減少。移住者（学校への通学、別荘滞在者）の利用もあり、ニーズの分散が課題。
・観光地は、千曲バスにより白駒線が期間限定（5 月～10 月の土日）で運行中。町として助かっている。今後、道の駅も建設されるため、小海町などとともに運行期間の延長を求めていきたい。

・高齢者の買い物対策は宅配サービスを検討したが、自分で買いたいという意見があり難しい。

・高齢者は介助が必要となった場合、デマンドの対応が難しくなる。

・高校生のために、JR 小海線の存続は必要。観光客のための公共交通の確保については、採算が合わない。

・小海町にある佐久総合病院小海分院への通院が不便という意見がある。

○佐久地域振興局

・旧八千穂村の通院手段はどのような形が多いか。

○佐久穂町

・佐久市の佐久総合病院本院へ行く場合もあるが、小海分院にも通院ニーズがある。

・大日向小学校への通学者をどのようにカバーするのが課題。

○川上村

・村地域公共交通計画は来年度策定予定。

・JR 小海線との接続にあわせて村内でバスを運行。バスの便数が少なく使いづらい、との意見がある。

・朝夕は高校生が通学のため乗車するが、昼間は利用者が少ない。定時バス・デマンドバス含め利便性の向上が必要。

・観光客は登山客がメイン。駅から登山口まで距離が遠い。登山客を公共交通により移動させるにも、人数が集まらない、時間が合わない。利便性を向上させることは必要。

○佐久地域振興局

・高齢者はナナーズ（小海町のスーパー）以外で JR 小海線を利用することはあるのか。

○川上村

・買い物のため JR 小海線を利用する人は少ないと思う。村内にも小さい商店があるので、バスや徒歩で買い物しているかと思う。または、村社会福祉協議会の買い物サービスを利用。

・通院には JR 小海線を利用。山梨県北杜市よりは、佐久方面（佐久総合病院本院や小海分院）が主。

○南牧村

・村地域公共交通計画は今後策定予定。

・村内の公共交通は JR 小海線のみ。免許のない人、免許返納者、車がない人を対象とした福祉バス（村社会福祉協議会へ委託。福祉有償運送。）を運行。

・福祉バスは村内2つの診療所や佐久総合病院小海分院、ナナーズ（小海町のスーパー）まで行ける。高齢者は買い物と通院が課題で、「医療機関まで行ける手段がほしい」という要

望が多い。佐久総合病院佐久医療センターまで行きたいという声もある。

・キロ 100 円で村内を発着点として利用可能。定時運行している。しかし、村の財政負担が大きい。月曜日のみ小海町まで運行、それ以外は村内を運行。

・佐久方面の通学において、小海駅発 7 時に乗らないと部活ができない。保護者が送迎している。農繁期は忙しく、保護者の負担となっている。JR 東日本においてダイヤ改正してくれればありがたい。

・観光客を対象に、野辺山駅周辺を周遊する「くろり野辺山」を運行。1 日 7 本。5 月から 11 月の土日。7～8 月は毎日運行。好評である。

・今年度、試験的に登山道の入口までバスを運行中。

○御代田町

・町地域公共交通計画はない。策定に向けて取り組んでいく。

・デマンド交通等、町内を循環する公共交通はない。町民ニーズはあるので検討。

・タクシー助成として 1,000 円券を 300 円で販売。1 人あたり 48 枚／年まで購入可能。保健福祉課が担当。通院や近隣市町村への移動に使用している。

・免許返納者等については、24 枚を無償で 1 度に限り、渡している。

・高校生の移動について、今年度より就学支援としてひとり年間一律 1 万 2 千円を補助。

・しなの鉄道の利用促進のため、小諸市、御代田町、軽井沢町共同で 14 便を増便。来年度のダイヤ改正に向けて、便数などを検討中。

・デマンド交通等の導入に向け、小諸市や佐久市の取組も参考に検討中。

・通院は、町内の開業医に通っているケースが多い。

○千曲バス

・佐久市、御代田町、立科町で路線バスを運行中。

・中山道線は、朝夕の運行。

・高齢者の買い物はデマンド、路線バスは学生の通学がメイン。

○佐久市シニアクラブ連合会

・市町村内の移動はできる。またいだ移動はできない。局を中心として取り組んでほしい。

・例えば、佐久圏域の南北連絡バスを構築。高校、医療機関等を経由。

【ルート案】

小海駅、小海町役場、本間川（小海高校）、佐久穂町役場、佐久総合病院、野沢会館（野沢南高校）、中込駅、佐久市役所、佐久医療センター、岩村田本町商店街、岩村田駅、佐久平駅、佐久平浅間小周辺、小諸市役所、小諸駅

・千曲バスの佐久上田線が廃止となったが、市町村をまたぐ交通手段が必要。

・電気バス、ハイブリットバスなど環境にやさしい車両を使用してみてもどうか。

○県高等学校 PTA 連合会

- ・子どもの送迎で苦勞している。例えば、テストで帰宅時間が早まる時や、保護者の迎えまで時間がある場合など、不便がある。
- ・公共交通による移動が充実すれば、高校生の学校選択の余地が広がるのではないか。
- ・御代田町の就学支援の取組はありがたい。
- ・保護者の時間が合わないと祖父母に頼むが、年齢的に運転に不安がある。

イ 幹線公共交通ネットワークの構築について

○交通政策課、特定非営利活動法人 SCOP

- ・資料1 P7.~P11.に基づき説明

●意見交換

○佐久市

- ・佐久地域の中心的な市として、県や周りの市町村と協力していかなければならないことは理解。
- ・中山道線については、主な乗客が本当に高校生だけでいいのか、観光客は考えなくてよいのか等、考えていかなければならない。

○佐久穂町

- ・都市間・圏域間連携拠点について、通院に JR 小海線を活用するという意識がない。
- ・地域交通拠点の対象は観光客か。当町の道の駅を拠点として考えた場合、小海町や八千穂高原、白駒の池周辺との接続を考える必要がある。
- ・旧八千穂村については、JR 小海線以外との連携ができればよい。
- ・大日向小学校については、生徒の7割が町外から通学しており、「JR 小海線も使えばいい」という意見がある。スクールバスで佐久市から通学している生徒からの意見が多い。

○川上村

- ・路線バスで村内の拠点を結んでいる。このような考え方でよいと思う。

○南牧村

- ・案どおりでよい。

○御代田町

- ・町内を巡回できるものがないので、面としてデマンドタクシー等の整備が課題。地域間の連結、接続が課題。
- ・デマンドの町外乗り入れについて、佐久市に出た後、町民がどのような交通手段により、どうやって動くのかという問題がある。
- ・佐久市内を御代田町のデマンドが自由に動いていていいものか、という意見もある。

○千曲バス株式会社

- ・利用者について、貸切バスは依然として落ち込んでいるが昨年ほどではない。
- ・高速バスについては、池袋便など一部路線（軽井沢への来訪者）はよいが、その他の路線はまだ伸びてこない。
- ・大阪便は土日、連休は乗車があるが、平日はほとんど乗車がない状態。長野から大阪へ行く人は少ない。
- ・通常の路線バスは以前に比べて回復。

○県高等学校 PTA 連合会

- ・立科町の補助により、高校生専用のバスが動いている。時間が合わなければ、保護者の送迎。
- ・バス乗車の場合、料金負担の問題もある。負担を減らすため、蓼科高校に限らず、通勤ついでに保護者が送迎するなどの対応も多いのではないか。

(2) MaaS の基盤づくりに向けた取組

○交通政策課

【キャッシュレス化の推進】

- ・これまで、JR 東日本が提供する地域連携 IC カードを軸に検討。本来交通事業者が主体で導入を進めるべきものだが、厳しい経営状況を鑑み、行政の支援の方向も含め、次回の全体会議で進め方をお諮りしたい。

【公共交通情報オープンデータ化推進】

- ・インターネットの経路検索サービスで県内路線バスの経路が検索できるよう、国が定めるデータ形式で情報を整備する事業を実施中。市町村・バス事業者には整備に必要なデータ提供をお願いしたい。